

「日々の理科」(第 2948 号) 2022, -9, -2

「森のキャンプ (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

野外でのキャンプは、もちろん、夜が更けてからが魅力である。たった一人で野外でキャンプをするのはとても怖いものだ。山溪の雑誌で「キャンプの恐怖に打ち勝つ」という特集が組まれたほどだ。自然の中にテントを張ると、外界のさまざまな音が聞こえて来る。それが恐怖に結び付くのだ。私も何度も経験がある。



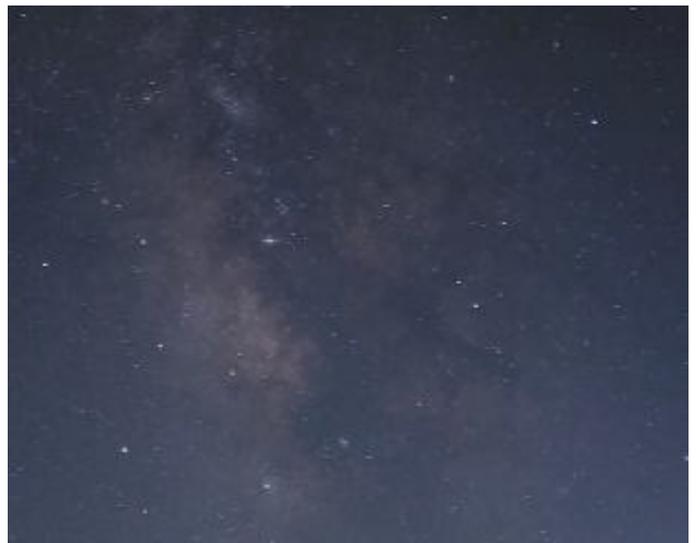
しかし「ソロ・キャンプ」とは言え、一カ所に何人かが集まると、不思議と恐怖はまったくなくなる。夜も更けてきて、「森のキャンプ場」のまななか良い雰囲気になってきた。



この晩は快晴で、星がよく見えていた。私は森から夜空を見上げてみた。木々の隙間からたくさんの星が見えた。20年もこの山荘を使っているが、こんな夜空は初めて見て、大変感動した。



夜半に、ソロ・キャンパーたちと、山荘近くの眺望の良いレタス畑まで行ってみた。見事に夏の星座と天の川が見えた。この写真、驚いたことに、ソロ・キャンパーの一人が持っていた「スマホカメラ」で撮影したものだ。デジタル一眼レフ並みの画質である。それも、車のフロントガラスに、スマホを「置いた」だけで撮った作品である。



夏の「いて座付近の天の川」は、地球(太陽系)から見て「銀河の中心部」を見ているので、恒星の密度が高く、最も明るく見える。その手前の「暗黒星雲」まで写っている。驚異のスマホだ。私は翌日、愚かにもこのスマホを「衝動買い」してしまった。